

諏訪之瀬島

「白水の滝」落差283メートル

十島村 教委発表 九州一の可能性

十島村教育委員会は16日、諏訪之瀬島北部にある「白水の滝」の落差が283メートルであることを明らかにした。これまで奄美市名瀬小湊にある落差181メートルの滝が九州最大とされていることから、白水の滝が九州では最も落差が大きい可能性がある。肥後正司村長は「トカラの自然が生んだ素晴らしい資源。広くPRしていきたい」と意気込む。

白水の滝は、島北部の富立岳(標高536メートル)の南東に位置し、海側からしか

見ることができない。島民は以前から滝の存在を知っていたが、落差や水源の場所など詳細は不明

だった。

調査は長年、諏訪之瀬島の火山噴火を独自に研究する青木章さん(73)と島根県出雲市や大学生、島民の6人が実施。7月、滝に沿って探索し、水源と思われる場所を3カ所見つけた。そこからドローンを飛ばして上空写真を撮影。国土交通省大隅国道事務所が、写真と数値標高データと照らし合わせて3カ所の標高を確認した。

その結果、最も高い水源が283メートルの地点にあることが判明。青木さんは「こ

れだけ落差がある滝はめったにないのではないかと。まだ、全てが分かったわけではないので調査は続けた」と話している。

村は来年1月、村文化財指定に向けた保護審議を開く。その後、県文化財指定を目指す。村営船での滝の紹介や写真家、ロッククライマーの誘致など、観光資源としての活用も検討する。(出水 終)

2003年の落差が確認された「白水の滝」十島村諏訪之瀬島(同村提供)

